



◎シリーズ

## 私のキャリア形成—第10回

# キャリア形成は 転機の連続

このシリーズは、自己のキャリア形成を図っていただく一つの場として設けられました。毎回、「私のキャリア形成」というテーマでCDA会員の皆さまの手記を掲載しています。皆様には、是非、この場を大いに参考・活用していただきたいと思います。

### 1. 自分自身が決断して生じさせた転機

(自己の意思でコントロールできた転機)

私のキャリアスタートは印刷会社の事務職からでした。仕事は売上傳票を電卓で集計し、帳簿に転記する位で簡単な内容でした。しかし、大雑把な性格の私にとっては本当に大変なことでした。例えば50枚程度の売上傳票を5回計算して5回とも結果が違う。やり直しが多く、他の人よりも仕事に時間がかかりました。また、癖字で数字が分かりにくいと、常に上司から叱責。本当に会社に行くのが憂鬱でした。

ある年、会社が経営不振で人員整理をすることを知り、それを理由に退職。東京の会社へ転職しました。この転職がOAインストラクターへの転機になりました。

東京でも事務職に就きましたが、パソコンを操作する仕事でした。初めてパソコンを使った私はその機能に感動しました。どんなに膨大な数値でも瞬時に計算し、どんなに細かい字でも筆文字のように印刷。「パソコンって凄い。もっと使いこなしたい。」と思い、パ

ソコンを使う仕事は率先して引き受けました。同僚や後輩にパソコンを教えることも増え、OAインストラクターという仕事があることを知り、資格取得に励みました。

1995年、パソコン時代到来、OAインストラクターの需要が最も高まった時でした。時代の流れもあり会社を退職。OAインストラクターの仕事を専門にできる派遣スタッフへ転職しました。できの悪い事務員からOAインストラクターへ。自ら決断し転機を招いたキャリア転身でした。

### 2. 予期しなかった転機

(自分の意思でコントロールできない転機)

#### ◆すべて自己決断できない転機◆

OAインストラクター時代に主人と出会い結婚。結婚しても今の生活がずっと続くと確信していました。しかし、結婚半年後、突然主人が地元福岡に帰りたと言い出します。

この時、派遣先でお世話になっていたA社とOAインストラクターの仕事が大好きで、仕事を辞めて福岡に移転など考えられませんで

した。知り合いが全くいない、風習の違いが不安であると主人に話しても、それが移転を断る理由にはならず、1998年12月、福岡へ移転します。

移転後「OAインストラクターは福岡でもできるか…」と、楽観的に考え始めた矢先、待望の子どもに恵まれました。しかし、喜びもつかの間、1999年6月、主人が仕事の都合で東京へ単身赴任。安定期前で、つわりが激しい、持ち家を購入したばかりと、私は福岡から動けない状況でした。

知り合いが全くいなかったのも、外出することもなく1日中誰とも話さない日が続き、初めて自分の意思で行動できないもどかしさを体験しました。孤独感に襲われ、これではいけない、周囲と接点ができる仕事をしようと考えました。幸いすぐに某旅行会社で3ヶ月限定、社内OAインストラクターの仕事に就けました。週4日の短時間勤務、上司や周囲の方にも恵まれ、孤独感は払拭されていました。

1999年9月、主人も単身赴任から戻り、楽しかった私の仕事も月末で終了。10月には里にでも帰ろうと考えていた9月15日早朝、破水。そのまま入院、3日後に出産しました。11月出産予定でしたので子どもは未熟児で、人工保育が必要で2ヶ月入院。

私は退院後、安静のため自宅療養。自分の体は思うように動かない。主人も仕事が多忙期でほとんど家にいませんでした。私の母もこの時、体調を悪くしていて駆けつけることができず、またしても誰とも話ができない孤独感と戦う日々が訪れました。

自分の意思や決断が全く通用しない。こんな思いは初めての出来事でした。しかし、このことで専業主婦は向かない外で働くタイプだと、自覚するキッカケになりました。

#### ◆権堂 千栄実 (ごんどう・ちえみ)◆

OAインストラクター歴 11年  
 企業研修講師歴 9年  
 キャリア・カウンセラー歴 7年 (CDA18期)  
 2008年2月 株式会社 Campanula 設立  
 代表取締役社長  
 人材教育サービス業を始め5年目を迎えました。  
 私のキャリア形成、それは、「転機の連続」でした。

#### ◆企業沿革◆

2008年2月 株式会社 Campanula 設立  
 2010年1月 新規事業 Jobstudy.jp 開始  
 2010年10月 第1回 Jobstudy.jp 実施  
 (福岡市立板付小学校)  
 2010年11月 第2回 Jobstudy.jp 実施  
 (日本経済大学 2年生 起業体験)  
 2011年3月 経済産業省主催  
 第一回キャリア教育アワード エントリー  
 2011年7月～9月 第3回 Jobstudy.jp 実施  
 (福岡 Ruby コンテンツ・産業振興センター)  
 2011年9月 第4回 Jobstudy.jp 実施  
 (春日市春日原小学校)  
 2012年1月 経済産業省主催  
 第二回キャリア教育アワード エントリー  
 (地域ネットワーク型部門 14エントリー中 第3位)

#### ◆経営理念◆

仕事で悩める人たちをサポートする活動を行い、減少を目指す

#### ◆Corporate mission◆

仕事の原点を伝える活動をする

#### ◆外部支援によって生じた転機◆

1999年11月下旬、OAインストラクターの資格更新試験がありました。子どもの退院が間近だったこともあり、退院前に試験を受けることにしました。試験会場は、福岡移転前に勤務していたA社の九州支店。しかも試験日に東京でお世話になったB上司と偶然再会。B上司は九州支店のOAインストラクターが12月で退職することで、業務引継ぎに来たそうです。この時、福岡の派遣会社に再登録になるが、月5日程度の稼働で良いから復帰するように誘われました。

OAインストラクターは稼働時間が決まっています。残業がありません。子どものことや体調を考えると勤務日数が少なくても良いとは夢のような話しでした。迷うことなく2000年1月から復帰しました。始めこそ稼働の少なさが魅力でしたが、体調が戻るともう少し仕事がしたい、A社の仕事だけでは物足りないと感じ、他社でフルタイムの仕事を探そうになりました。しかし、子どもがいることや年齢的なことで希望するような仕事は見つかりませんでした。

2003年2月頃にはOAインストラクターにかかわらず、フルタイムの事務職に変更し仕事を探しました。やっと該当する仕事が見つかり明日、面接という日の夜、A社でお世話になったC上司から電話が来ました。「全国展開しているZ社の研修入札が取れた。5ヶ年計画で業務関連の新システムを導入し、全国の9支社で操作研修をする。福岡でも研修があるから手伝って欲しい」。突然の話で驚きましたが、私はインストラクターを辞め、明日、事務職の面接に行くことを説明しました。C上司は「その仕事は俺の仕事を手伝い終わってからにしてくれ」と説得されOAインストラク

ターの仕事続けることにしました。

社会では子どもや年齢的なことで評価されなかった私、そんな私を2度も必要だと言ってくれたA社の上司たち。私は彼らの支援で、仕事を続けていくことができたのでした。

2003年3月、A社の契約社員として、Z社社内研修プロジェクトに参加しました。Z社は通信事業社で、代理店のスタッフ向けに社内研修をするのが私たちの仕事でした。内容はOAインストラクターと同じという話でしたが、実際は大違い。パソコン操作を含めた業務研修だけでなく、接客研修や商品販売研修など6種類（延べ日数12日間）の研修を九州全県と沖縄にある支店8箇所か外部会場で実施します。

前任の研修業者は7名で担当したそうですが、私たちは3人で担当。パソコン操作の研修ではありますが、説明するのはZ社の業務内容。私たちが新人が受講する4日間の業務研修に参加しましたが、百科事典5冊分の業界知識を含めた業務内容はそう簡単には覚えられません。

さらにA社本部が作成予定だった研修テキストも、業務関連は地域の独自性が強く対応が不可。結局半分に該当する3種類（6日分）の研修カリキュラムとテキスト作成は現地講師が担当。加えて研修に使用するパソコンを研修会場に発送したり、受講者の名札と座席表を作成したりする運営のほとんども現地講師が担当。前任研修会社との軋轢もあり、当然研修に関する情報提供はなく、本当に手探りの状態で4月の研修開催に向けて準備をしました。

A社の社運を掛けたプロジェクト、地域講師全員、泣き言など言う暇もなく成功させる、やるしかない、そんな鬼気迫る状況でした。



何とか準備が整い、福岡、熊本、宮崎の3会場研修開催。仲間と担当相談した結果、私は子どもがいるので日帰り可能な福岡担当。しかしこれが非常にハードな仕事でした。福岡会場は九州で一番収容人数が多く、この時の参加人数は60名。会場の関係で当日の朝8:30入り。机の配置からテキスト配布などの会場セッティング。2人で1台パソコン操作がさせるとしても30台のノートパソコン設置。これが古いパソコンで1台が非常に重い。1時間ですべて完了させ9:30~17:00研修。その後片付けまで全て私1人。休む間もなく保育園へお迎え、自宅に帰り着くのが21:00、それから晩ご飯の準備、家事が終わって寝るのは深夜1:00頃。翌朝4:30起床、そんな日が4日間連続。常に時間との戦い、どうしたら準備や片づけが簡略化できるか、どうしたら膨大な研修内容のポイントを絞って端的に伝え時間内に終わらせるか、そればかりを考えました。日帰りが可能な研修は福岡だけでなく小倉、佐賀、長崎、熊本も担当。研修終了時間に終わらないと、私自身が帰りの電車に間に合わず、保育園のお迎えに間に合わない。このことは時間管理、仕事の段取り、インストラクションの洗練など、今の仕事をする上での基盤になりました。

通常の研修だけでもハードなのですが、6ヶ月に1度、Z社の社内試験が開催されます。試験は筆記試験と実技試験の2種類。筆記試験の問題作成、実技試験の評価も研修講師が担当。実技試験は接客スキルとリーダー資質を見極める面接試験に分けられます。接客スキルはA社研修講師30名と、お客さま役をする臨時スタッフ30名が担当。リーダー評価は外部の心理カウンセラー50名が担当。現地受付スタッフを含めると、総勢140名が動く大

きな仕事でした。

実技試験前は関係者が一同に東京に集り、1週間評価基準についての擦り合わせがあります。その後、通常自分が担当していない地域に飛び1週間試験をします。試験会場によりますが約20名程度の関係者が1週間業務に関わります。A社の研修講師はリーダーとして試験運営に関わるすべてのマネジメントを行います。もちろん試験官でもあるので、1日最大20名、1週間で述べ100名前後の評価をしました。このプロジェクト運営のスキルや、人の評価スキルも今の仕事の基盤になっています。

試験が終わる頃には、日帰研修だけ担当するなど到底言える状況ではなく、九州、沖縄、全県など半月も出張するような生活になっていました。

それから2年目の2005年。私の現在に繋がる転機が1年に2度も訪れた忘れられない年。

1つ目の転機はCDA資格取得です。2005年3月A社内で内部扮装が起き、C上司がプロジェクトから外れることになりました。私も内部紛争に巻き込まれ、仕事の契約終了。理由は子どもがいて思うように出張ができないからだそうです。突然の事態で混乱している私を見かねた仕事仲間が「権藤さん、キャリア・カウンセラーになってみたら？」とCDAを紹介してくれました。私はこの話を聞いて、これまで自分がコンプレックスに感じていた年齢や経歴が活かせると思うと胸が躍りました。

資格取得には時間がかかると聞かされましたが、退職することで時間はできる。これは大きなチャンスだと思い早速、通学講座に申し込みました。勉強に専念するつもりでしたが、5月に知人から4ヶ月間の就職支援講座月



15日程度パソコンを教えて欲しいと依頼されました。私は仕事を通して、未就労者の悩みを知り、ますます資格取得に意欲を燃やしました。2005年12月、第18期CDAを無事取得しました。

2つ目の転機はビジネスネームの取得です。2005年6月、Z社の同業X社で研修業務を担当している友人から連絡がありました。私がZ社の仕事を離れたことを聞き、X社の研修を手伝って欲しいと依頼がきました。特殊な業界で対応できる講師は少なく困っているとのこと。

九州の研修は月3日程度、研修の大変さは十分理解できていましたので、できる範囲で手伝えることにしました。10月CDA一次試験が無事終了したその日、待っていたかのようにA社のC上司から連絡が来ました。「内部紛争は終結し、元の状態に戻った。復職して手伝え」。気に掛けてもらえていたのは、本当に嬉しかったのですが、その時もX社の研修講師をしていたので、A社への復職はできないと断りました。

C上司は「これまで以上にZ社の研修数が増える。どうしても内容を知っている講師が必要。たしかに同業社の研修兼務タブーだが、おまえなら口が堅いから大丈夫だろう。X社の友達と相談して兼務してみろ」と両立を提案してくれました。言われるままX社の友人に相談したところ、友人も快諾。そこでX社の研修をビジネスネーム「権堂 千栄実」を使って兼務するよう提案されました。兼務になればA社の契約社員にはなれません。C上司は特例でフリー講師として契約。「権堂 千栄実」を屋号登録して個人事業主の開業に至りました。その後、仕事の内容によって本名と、ビジネスネームを使い分ける仕事のスタイル

が確立。この年の出来事も現在の仕事に繋がっているのです。

2007年10月、今に至る最大の転機を迎えます。Z社の研修も終焉が見え、その後の身の振り方を考えていた時、東京の友人からメールが来ました。「知人の人材派遣会社が、来年福岡に支店を出します。専任の研修講師を探しているから権藤さん会ってみない?」。もちろん断る理由はなく、派遣会社の副社長のYさんにお会いすることになりました。Yさんとはすぐに意気投合し、即、契約の話になりました。Yさんから「権藤さん、法人契約をしましょう」と言われ、私は本当に驚きました。「法人契約ですか? 私は法人ではありませんよ」と、お話すると、Yさんは「法人化すればいいじゃないですか。フリーの講師でも、1人会社の株式会社であっても仕事の内容は一緒です。ただ、後々のことを考えれば株式にしておいたほうが断然いいです。権藤さん会社作りなさい」。その言葉は、しばらく耳から離れませんでした。Yさんと会った次の日、市報の「起業家支援セミナー開催」の記事を見て即参加。それが会社設立の大きな後押しになり、2008年2月、株式会社Campanula設立に至るのでした。

5年間Z社の仕事を通して得たキャリアは、本当に自分の力だけで得たことではありません。A社の上司や仕事仲間もちろん、保育園のママ友、主人、義理の母、本当に多くの方々の支援があったからこそ、培われたキャリアでした。

### 3. 正常な発達過程の通過点として生じる転機

(予測しコントロール可能な転機)

Z社のキャリアが活かせると思い、2008年2月、人材教育サービス事業として独立。しかし、私が所属していた研修会社では、自分が関わった仕事先とコンタクトを取るのにはマナー違反といわれていました。A社はもちろんこれまで研修をしてきたお客さまには一切独立したことは告げませんでしたので、独立時のお客さまはYさんの会社だけでした。しかし、Yさんの仕事もすぐにオーダーが来るわけではなく、3月以降の仕事は何もありませんでした。

そんな状況を救ってくれたのは、またしても友人達でした。CDA同期の紹介でカウンセラーと就職支援研修の企画・講師、別の友人から専門学校の非常勤講師の仕事が決まり、何とか4月から仕事をすることができました。この仕事がかた転機に繋がるのでした。

私は、これまで仕事に就いていた人が研修の対象者でした。しかし、この仕事で就職に悩む若者達の話聞き、大きな衝撃を受けました。就職ができない理由として挙げられる、職種を知らない、社会に対する認識不足、様々な対応力の低下などは、単なる個人スキルの問題ではなく、彼らを取り巻く社会環境や家庭環境の変化が少なからず影響していることも知りました。また、彼らは仕事に悩んでいることは、他の人に知られたくないなど、職業相談に対して非常にマイナスのイメージを持っていて、相談に来にくいと話していました。

同じ時期、CDAの仲間が集ると、相談して欲しい人と、相談にのってあげたいCDAがもっと気軽に職業について学ぶ場所を作り



たいという話題で盛り上がっていました。私は本当に子どもの職業教育を気軽に行えるような取り組みがしたいと思い、2010年1月「Jobstudy.jp」子どもの年齢に応じ段階的に職業知識が得られる体験型教育プログラムを考案。サービス展開を始めました。これが弊社の事業を、企業研修からキャリア教育に転身させた転機になりました。

2010年1月からスタートし、現在まで実施





したのは小学生の部の職業体験と中学生の部、ビジネスマップ作成、大学生と再就職者向けの起業体験と5回実績があります。特に今力を入れているのは小学生の部です。

小学校の教室を、地域の中小企業5～6社の職業体験ができるブースにし、子どもたちは30分入れ替え制でテーマパークのように好きな職業を仕事を自由に選び体験して歩きます。

体験前「仕事の役割」「このしごとにつくには」という項目を企業から説明、子どもたちは専用の学習ノートに記入。体験終了時は「楽しかったこと」「つまらなかったこと」の感想を記入。これを数年継続することで、各自の能力傾向や興味の傾向が把握できるキャリアノートとして活用できます。1人でも多くの子どもたちに楽しく職業を学んでもらえるよう、全国での実施を目指し事業展開に取り組んでいます。

での悪い事務員から現在の仕事に至れたのは自己決断して選んだ転職よりも、周囲の状況に流され多くの方からアドバイスをもらって引き寄せられた転職の影響が強かったです。私は転職によってキャリアを培うことができました。そして、これからも更なるキャリアの構築を目指していきます。人生は転職の連続ですから……。

